

## 年次テーマ：「適正使用の流儀：Going David!」

### 第 71 回抗菌薬適正使用生涯教育セミナー “AST 活動に勤しむあなたに”

残暑お見舞い申し上げます。

第 71 回の本セミナーのキーワードは「勤しむ」です。このセミナーをご受講になる皆様も、施設内の抗菌薬適正使用の推進に日々勤しんでおられるものと思います。

“勤しむ”とは、「心をこめて勤め励む」、「物事を毎日規則的に励み行う」ということだそうです（精選版 日本国語大辞典）。

“心をこめて”というところが重要かと思います。患者さんのため、患者さんの主治医のため、あるいは、病院のために心をこめて適正使用の推進に取り組むことが大切だと思います。我々の専門知識・資格は、それだけでは何も生みません。非専門家に必要とされ、組織に貢献することが必要です。「社会に貢献し続ける限り、その機能は必要とされる (P.F. Drucker)」という識者の言葉があるように、自分（が果たす機能）は組織に貢献できているか？と自問することが、専門家としての自分自身にとっても大切です。“心をこめる”とは、そのような視点を持つことではないでしょうか。

“毎日規則的に”も非常に重要のようです。「しばしば創造性と混同されがちな熱気と繁忙の中で他の者が駆け回っている間に、亀のように一步一步進み、先に目標に達し、成果をあげる地道な人たちがいる（出典・同上、改変）」とされています。超一流の音楽家、金メダルを勝ち取ったのアスリート達は、いずれも日々自分に課す **strict routine** を決して怠らないことで結果に結びつけるとされています。

組織内抗菌薬適正使用を推進するウルトラCの戦略はありません。心をこめて、日々、規則正しく、自分の専門的能力の貢献対象を認識した上で、**routine** の勤めを果たして行くことが成果に結びつきます。それが、抗菌薬適正使用の推進に勤しむ我々の強みとなり、社会に必要とされ続けます。

本日の 1 日コースが皆様のお役に立つことを、またこのセミナーが皆様に必要とされ続けることを願っております。

公益社団法人日本化学療法学会  
抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会  
委員長 青木 洋介